

## 稲 WCS 新品種の導入による サイレージの品質向上と生産安定支援

対象者 稲 WCS 生産農家、コントラクター組織、酪農家

### 【普及活動のねらい】

当管内では、耕種農家における水稻の生産調整と併せて畜産農家への粗飼料の安定供給を目的として、平成 21 年度から稲 WCS の生産供給が開始され、平成 31 年度の稲 WCS の作付面積は、8 農家（組織）で約 33ha に達しています。これまで当管内では、高糖度で靱が少ない稲 WCS 専用品種である晩生品種の「たちすずか」を中心に栽培してきましたが、作付割合が「たちすずか」に偏重していることから、例年、刈り遅れが生じ、粗飼料の品質低下が発生していました。また、「たちすずか」は、稲縞葉枯病の抵抗性がないため、今後多発生した場合における安定供給に大きな不安をかかえていました。

そこで、当課では、「たちすずか」との作期分散が可能な中生品種の「たちあやか」や「たちすずか」と同熟で稲縞葉枯病抵抗性を有する「つきすずか」を導入し、サイレージの品質向上と安定生産に向け支援を行いました。

### 【普及活動の内容】

各新品種の WCS 品質、導入地域における適応性・収量性を検討するための実証ほを設置し、定期的に生育調査を実施しました。その調査結果をもとに各品種の生育状況を栽培農家と共有し、生育に応じた追肥の施用等、適正な栽培管理について支援しました。

また、収穫期においては、適期収穫に向けコントラクター組織と生育状況や刈取り作業の進捗状況を共有しながら生育に応じた収穫順を定期的に検討し、収穫作業の計画案を作成しました。



「たちあやか」の生育調査

### 【普及活動の成果】

栽培農家とコントラクター組織に生育に応じた栽培管理と適期収穫が実施されたことから、収量は、新品種の「たちあやか」「つきすずか」とも既存品種の「たちすずか」と同程度でした。品質は、サイレージとして発酵が完了した後、分析する予定です。今後もサイレージの品質向上と安定生産に向け支援を継続していきます。



収穫調製作業